

北海道下川町SDGs スタディツアー

地域脱炭素の取り組みを地域経済の活性化・
企業の価値創造につなげる仕組みについて学ぶ

開催日
2026年
10/9・10
FRI・SAT

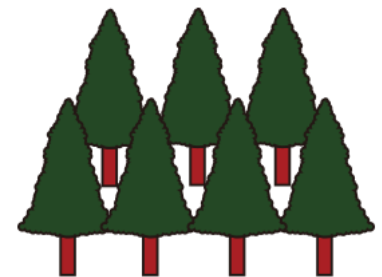
主催・申し込み先：北海道下川町 企画協力：日経ESG経営フォーラム

〒098-1206 北海道下川町幸町63番地 TEL (01655) 4-2511 FAX (01655) 4-2517

E-mail s-kikaku@town.shimokawa.hokkaido.jp

1. 下川町視察の目的

- 北海道下川町は、北海道の北部に位置する人口約2,800人の町です。町の面積644km²（東京23区の面積に相当）の約9割が森林で覆われ、豊かな自然資源を背景に農林業を基幹産業とした農山村地域です。
- 国からSDGs未来都市（2018年）などの選定を受けるとともに、町民が主体となって、「2030年における下川町のありたい姿（下川版SDGs）」を策定するなど、町独自に7つのゴールを設定し、最上位計画の第6期下川町総合計画の将来像に「ありたい姿」を位置づけながら、各施策や事業を実施しています。
- 地域資源の森林を最大限・最大効率に活用することを基本とし、循環型森林経営を基軸として、森林総合産業の構築、超高齢化社会にも対応した新たな社会システムの構築、森林バイオマスなどの再生可能エネルギーを活用した地域エネルギーの完全自給と脱炭素社会構築を柱とした経済・社会・環境の三側面の価値創造、統合的解決による「持続可能な地域社会（森林未来都市）の実現」に向けた取り組みを進めています。
- 今回は、下川町が約25年に渡って進めてきた「持続可能な地域社会の実現」や「地域脱炭素」の取り組みや関連施設などを視察し、参加企業・団体の今後の取り組みにつなげていくことを目的とします。



森林面積

約 **90** %



2. 視察場所

- 今回のツアーでは、下川町が取り組んでいる様々な森林資源活用の取り組みの中から、代表的な取り組みをご紹介します。

1. 循環型森林経営（溪和町有林）

下川町は約4,700haの町有林を有していますが、木材の安定供給と雇用安定化を目的に「伐ったら必ず植える」という持続可能な林業を基本理念として、森林の伐期を60年と捉え、循環型森林経営を行っています。また、全町有林のFSC認証取得やカーボンオフセットクレジット創出など森林資源の価値化に取り組んでいます。



2. ゼロエMISSIONの木材加工（下川町森林組合北町工場・(株)フプの森）

伐採された木材は、丸太のまま地域外に販売することはせずに、なるべく地域内で様々な形に加工し、付加価値を高めて地域外に流通させる仕組みを構築しています。捨て置かれる枝葉を活用した商品化、利用価値の無い林地残材は、木質バイオマスボイラーの熱エネルギーとして活用するなど、丸太一本を全て使い、「森林の恵みを余すことなく使い尽くす」取り組みを進めています。



3. 再エネによる地域エネルギー自給と脱炭素社会構築（木質原料製造施設）

現在、地域内に木質バイオマスボイラーが10基あり、そこから30の施設に熱エネルギーを供給しています。また、木質原料製造施設を整備し持続的な原料供給体制を構築しています。これらの取り組みにより、地域の熱自給率は約50%、公共施設の熱自給率は約70%に達し、化石燃料からのエネルギー転換コスト比較では年約4630万円の削減効果があります。



4. プラチナ企業の森（日経ESG経営フォーラムの森）

下川町の取り組みに共感いただける企業・団体などからの寄付金や協賛金の支援を受け、森林整備や保全を進める協定を結んでいます。
・第1号「日経BP環境経営フォーラムの森（2010）」



5. 一の橋バイオビレッジ（再エネを核とした集落再生／TODA農房）

中心市街地から約10km離れた一の橋地区では、木質バイオマスエネルギーを核とした集落再生に取り組んでいます。具体的には木質バイオマスボイラーからの熱利用を核として、点在していた高齢世帯を徒歩圏に集約した集住化住宅の整備。さらにはその熱で菌床しいたけを通年栽培し、新たな雇用と産業を生み出しています。

また、近年では(株)戸田建設と「地方創生に関する包括連携協定」を締結し、その取り組みの一環として、夏秋いちごの栽培・販売が行われています。この事業では、バイオマス熱供給をはじめとする再エネを活用した環境負荷の低い再エネ農業を実施するとともに、下川町立障害者支援施設「山びこ学園」との協働による農福連携などが行われています。



集住化住宅



TODA農房

3. 講義・ワークショップ

地域脱炭素の取り組みを地域経済の活性化・ 企業の価値創造につなげる仕組みについて学ぶ

- サステナビリティへの取り組みが企業価値（財務情報）との接続で評価される時代を迎え、企業が脱炭素などの地域課題に関与する意義が改めて問われています。折しも、政府が進めてきた脱炭素先行地域が当初目標であった100地域の選定を終え、いよいよ実装段階に入りました。そこで見えてきた課題等を踏まえ、地域脱炭素の取り組みを地域経済の活性化と関与する企業の価値創造につなげる方策を考えます。
- 昨今のサステナブルファイナンスの動向や地域におけるその展開を見つつ、生み出した儲けを地域で循環させる仕組みについて学び、企業価値への接続を考えてみましょう。恰好の素材として、先進地域である下川町の取り組みを取り上げ、このプロセスを具体的に議論するワークショップを併せて実施します。



講 師 政策研究大学院大学 教授

竹ヶ原 啓介 氏

静岡県富士市出身。一橋大学法学部卒。

日本開発銀行（現㈱日本政策投資銀行（DBJ））に入行。フランクフルト首席駐在員、環境・CSR部長、執行役員産業調査部長、設備投資研究所長等を歴任。DBJ環境格付融資プログラムの開発など、サステナブルファイナンス分野に長く従事。環境省中央環境審議会委員、脱炭素先行地域評価委員会座長、ネイチャーポジティブ経済研究会座長、ESG地域金融促進事業意見交換会座長、内閣官房非財務情報可視化研究会座長、経済産業省産業構造審議会委員、SX銘柄評価委員会委員、農林水産省バイオマス産業都市選定委員会委員、特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム代表理事等を努める。



4. スケジュール（案）

■ 現時点での案です。時間調整で視察時間や場所が若干変更になる可能性があります。

日程	時間	場所	プログラム・テーマなど
10月9日 (金)	9:40～12:30	旭川空港、JR旭川駅	集合・バスで移動
	12:30～13:50	まちおこしセンター「コモレビ」	昼食、名刺交換、下川町概要説明
	13:50～14:10		オープニング挨拶、出発準備
	14:10～14:25	移動（バス）	
	14:25～15:25	溪和町有林	循環型森林経営
	15:25～15:40	移動（バス）・乗換	
	15:40～16:00	木質原料製造施設	木質バイオマスボイラ用チップ製造施設
	16:00～16:10	移動（バス）	
	16:10～17:00	下川町森林組合北町工場 株式会社フプの森	ゼロ・エMISSIONの木材加工施設
	17:00～17:15	移動（バス）	
	17:15～18:30	五味温泉	チェックイン、入浴など自由時間
	18:30～20:30		交流会
10月10日 (土)	～9:00	五味温泉	各自チェックアウト
	9:00～9:05	移動（徒歩）	
	9:05～9:20	日経ESG経営フォーラムの森	プラチナ企業の森
	9:20～9:50	移動（バス）	
	9:50～11:10	一の橋バイオビレッジ視察	再エネを核とした集落再生 TODA農房（戸田建設㈱）と下川町の連携
	11:10～11:30	移動（バス）	
	11:30～13:00	まちおこしセンター「コモレビ」	昼食
	13:00～15:00	講義・ワークショップ「地域脱炭素の取り組みを地域経済の活性化・企業の価値創造につなげる仕組みについて学ぶ」	政策研究大学院大学 教授 竹ヶ原啓介 氏
	15:00～15:10	まちおこしセンター「コモレビ」	クロージング挨拶、出発準備
	15:10～18:00	JR旭川駅、旭川空港	解散